

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年5月に新しく「やさしさと笑顔いっぱい、地域で暮らす寿幸苑」という基本理念を全員で作って上げ昼夜問わず理念に向かって奮闘努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の入れ替わりも多く、会議や機会がある度に理念を理解し共有できる様、話あっている。職員個々人の個性・性格もあるが、先ずは入居者個人を尊重し、その人にとって対応はどうするのが最善策なのか、職員一人一人考え、実践してもらっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌等に掲載したり、話す機会があれば苑の理念を説明し、家族や地域の方々に理解してもらえよう様努力している。	○	4月より町のボランティア活動の方を月2回受け入れており、交流の輪を深めつつ、ボランティア活動の方を通して地域社会に苑の支援・活動内容等を広げて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	苑の近くには民家は少ないが、顔を合わせると挨拶や立ち話をしたり、苑の運営推進委員会に出席していただいたりしている。	○	先ずは挨拶からという事で、このまま継続して行きたい。また、4月より町のボランティア活動の方を月2回受け入れており、このまま交流の輪を深め・広げて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事・活動には出来るだけ参加するよう努力はしているが、職員の勤務状態や入居者の現況からして難しい所がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	今後、担当部署の方との意見・情報交換を密に取って行きたいと思っている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	生活保護の活用はなされているが、成年後見制度を活用しようとされる方が少なく、今後権利擁護について理解を深めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	拘束など肉体的な虐待は全く無いが、今後も不愉快な思いや精神的な苦痛を与えないよう努力して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書に基づき丁寧に説明している。また契約以降サービスに関して変更がある際には、契約書ないし重要事項説明書の変更として提示し、承諾を頂くようになっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月1回のモニタリングを実施する際に入居者本人に直接要望や意見を伺っており、提起された意見等は必ず会議に取り上げ、運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的に発行する「苑だより」や利用料徴収（原則対面授受）時および面会に来られた時に、近況や健康状態について報告している。また、容態がおかしい時は、その旨電話連絡を入れ、面会に来てもらっている。</p>	○ 家族との信頼関係を継続させていく上でも、報告や連絡を密に取って行きたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付を玄関に提示していると共に、個人で言いにくい場合には家族会として取り上げてもらい、苑に出してもらっている。提示された内容には会議を持ち、その結果を文章で各ご家族の方へ回答している。</p>	○ 家族の方は、苦情・意見等は個人として言いにくい場合もあるので、家族会として取り上げてもらい、運営に反映させている。今後も個人と家族会としての意見の双方を取り入れ、運営に反映して行きたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の会議の場で職員の意見を話す場はあるが、介護業務に関する事が中心であり、運営・労務等に関する事が話題に上がるのは少ない。</p>	○ 会議の場で、職員が運営や労務に関して気楽に話題に出せるような雰囲気を作り上げていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表を作成する前に職員の都合等を聞き、行事・日常業務に支障が出ないように、出来るだけ調整を図っている。</p>	○ 苑は、そこで働く職員のためにあるのではなく、そこに入居している利用者の為にあるという心構えを今後もしっかりと認識して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>職員の入れ替わりが多いことは、利用者にとっても「馴染みの関係」が薄れるという事で、好ましくはないが、出来るだけダメージを少なくするために、コミュニケーションを取り楽しい時間が多く取れるように努力している。</p>	○	<p>家庭の都合・身体の都合で離職されるが、離職の原因がどこにあるのか、また、生き生きとして働ける職場を作るのはどうしたら良いのか検討する必要がある。新しく採用された職員に対しては、一日も早く「馴染みの関係」が作れるようサポートして行きたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> <p>いろいろな研修会へは、個人の要望やレベルに合わせて、積極的に参加してもらっている。</p>	○	<p>研修参加に対して、研修費・旅費など側面的な支援も含め継続して行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> <p>研修旅行の際には、他のグループホームや小規模多機能施設を見学させてもらい、支援のサービス向上に反映させてもらっている。また、グループホーム連絡協議会の活動にも積極的に参加している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> <p>旅行や慰労会など、いろいろ工夫はなされているが、それがストレスの軽減につながっているかは疑問である。個々人のストレス解消法に頼っているのが現状である。</p>	○	<p>フランクに不平・不満や愚痴を言い合えるような、雰囲気作りや場の提供を設けて行きたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>個々の職員に対する業務内容の評価や評定を図るシステムは設けられていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、必ず苑長・ケアマネ・主任が対応し、これまでの生活歴・環境・現在の困っている事、不安に思っている事、また、苑でどの様な生活を望んでいるのか等、詳細にお聞きし、会議で全体化している。また、ケアプランに基づいて月1回のモニタリング時には、直接本人から不満・不安・要望等を聞いている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、本人・家族から伺った話は文章化し、会議で全体化している。また、家族の来苑時には必ず経過や現況などを報告すると共に、不満や要望なども聞いている。これらが話しづらい時は、家族会を通す手段もあることを付け加えている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方を断ったことはないが、その方へのサービスが他の施設の方が最良と思われた時は、その施設と当苑でのリスクを説明し、最終的には本人・家族の方に判断をゆだねている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なじめそうにない方については、家族の協力を得て昼間だけグループホームで過ごしたり、夜間家族と一緒にグループホームに泊っていただいたりの工夫はしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時として、する側とされる側に陥りやすいが、ともにゆったりとした時間を過ごす時もあり、そこでは喜怒哀楽を共有している。	○ 常に苑の理念を忘れず、認知症とは言え人生の大先輩である方々の話を聞き、所作に先人の知恵を学び喜怒哀楽を共にした関係を築いて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方も苑の理念は理解されており、本人を共に支えて行くという事では協力が得られており、実践出来ている。	○	機会あるごとに連絡を取り合っており、信頼関係は築かれていると思う。この信頼関係を損ねないようなお一層の配慮や努力をして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	現在、本人と家族がこじれている事例はなく、特に調整をするといった事はない。時に本人が不安や寂しさが増強した時などには、電話で家族の声をきかせたり、面会に来てもらったりしている。家族の協力は得られている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人や同級生との交流も積極的に促している。年賀状や暑中見舞いのハガキを出す事を勧めたり。時には友人や同級生の訪問や電話も掛かって来る。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	対人関係が上手く取れる人もいれば、うまく取れず孤立傾向から抜け出せない人もいる。身体的な障害・その人の個性やこれまでの生き様とも関係してくるので、無理強いは出来ないが、無意識にその場に短時間でも参加出来る様な工夫はしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居され亡くなられた方もあるが、迷惑が及ばないかぎり「苑だより」を送ったり、行事などへの参加を呼び掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングの際には、本人・家族からサービスの満足度や希望・要望などを伺っているが、職員の数・物事の危険度などの理由から、本人の希望・要望に添えないこともある。	○	少ない職員の数・高い危険度においても、本人の意向とする行動が他の方法で安全に行え、満足できる様なものはないか検討する努力をして行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談・入居時に力をいれており、それに基づいてケアプランが作成されている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の個人の記録・健康状態・容体観察などで、変化や問題点などが出てきた時は、その日に居たスタッフや会議で検討しスタッフ全員が共有認識できるようにしている。	○	申し送りの徹底を今後も図って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	年間行事計画やケアプランに基づいて実施しており、月1回のモニタリング時や家族の面会時にそれぞれの意向を確認し、出来るだけ意に添うように努力している。	○	現状を継続して行きつつ、本人の意向に添うように多面的な努力をして行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリング時には直接本人から不満や要望を伺っており、家族の方にも面会・利用料支払いに來られた時、お伺いしている。変化や新しい支援の方法・問題が出てきた時には、家族に報告すると共に、必ず会議に取り上げ検討をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については不十分かもしれないが個別ノートに記録し、申し送りや日々のスタッフ間での話の中で共有は出来ていると思う。しかし、実践となると対職員関係等でうまくいかない時もある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1ユニットのグループホームという事から、多機能性といわれても限りがあると思われる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町ボランティア協会の方を受け入れ、話し相手など支援頂いている。	○	入居者の現状からして、地域の催しや保育園等の行事になかなか参加しがたくなっているが、ボランティアの協力を得て、今後参加を積極的に試みたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの入居者は、他のサービスといっても介護保険を利用する事が出来ません。医療レベルのサービスかインフォーマルなサービスに限られると思います。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからは、運営推進委員会議に参加してもらっており、連絡は取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員の方がホームドクターを持っておられ、緊急時や家族の都合がつかない時以外は、基本的に家族の方に定期通院をお願いしている。また、訪問看護ステーションとの医療連携も活用している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当グループホームは認知症対応型のため、地域の方が相談にみえられた時はその用意があるし、職員も認知症に関して精神科・脳外科の医師と相談出来る関係を築いている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当苑にも苑長の他2名の看護師が在職しており、訪問看護ステーションの看護師も定期的にチェックに来ており、介護職を含めスタッフ全員が意見交換や支援が出来る体制が整っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時は、リアルタイムに家族や病院に容体や状況を聞くようにしており、困っている事があれば、こちらから出向くこともある。また、長期入院を余儀なくされる時は、入居時の重要事項説明時に、経営的に1ヶ月以上は入居されている部屋を空けておくのは難しい事も伝えてある。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期・重度化した場合の基本的な方針を家族に提示し承諾を頂いている。本人・家族の希望であれば主治医の指示のもとで看取りを行う事も明示している。これまでに看取りの事例は1例だけである。看取りに関して、スタッフの共有という所では、全員が共有しているかは疑問である。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末を迎える場所においては、本人・家族の意向が第一と考えているが、グループホームでは命の尊厳という事から、その人の病状等から看取りが出来ない場合も出てくる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	出来るだけ本人・家族にダメージが掛からない様、配慮はしている。	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	プライバシーは、その人の根幹にかかわる問題でその人の誇りやプライド等傷つけない様、言動に注意を常に払っている。又、個人情報についてもガイドラインを定め、配慮している。	○ 職員には守秘義務がある事また、その人の人格等を傷つけない様な言動をとる事が大切である事を、今後も職員全員に周知徹底させていきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	出来る限り本人の意向を聞いて、自分で納得して毎日を過ごして頂くようにしているが、時には納得して頂けない時もある。その時は、十分に出来ない理由を分かりやすく説明している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入居している方を第一に考えているが、その日・時の状況によっては、入居者の意向に添えない時もある。その時はその理由を説明したり後日にまわしたり出来るだけ満足が得られるようにしている。	○ 職員の都合・惰性・マンネリ化に陥ることなく、常に入居者の事を第一に考え、どの様にしたらその人が満足を得られるか、多面的な考えが出来る様にしたい。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	美容師の元職員の方が毎月来訪され理美容を支援して頂いている。また、家族とともにお気に入りの理容室へ行かされている方もいる。身だしなみについては随時気配りをしており、季節に応じて配慮している、	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も同じテーブルに着き、しえん・介助をしながら会話を楽しんでいる。準備・後片付けも、その人の残存能力に応じて手伝いをして頂いている。	○	出来るだけ昔を思い出してもらい、残存能力が生かせるようにして行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関しては、アルコール依存症の方が入居してから、基本的に苑内禁酒になっているが、行事や家族同伴時には考慮している。喫煙についても喫煙希望の方が1名おられたが、その人の健康維持管理の面や火災予防の面から、禁煙をしてもらった。その他は自由であるが、食中毒・健康管理には配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関しては記録を取り、その人の癖・パターンが把握出来るようにしている。その上で、その人に合った誘導や声かけを行い、失敗やオムツ・リハパンツをしなくても良い様な努力をしている。	○	プライバシーや自然排泄に考慮しながら、継続して行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守りの中、自力で入浴をされる方は1名しかおらず、その方にはその方の希望する時間に入ってもらっている。週月・水・金の3回の入浴を実施しているが、その時の状況によっては、不快な思いをさせない様、清拭・部分浴・シャワー浴などを実施している。本来なら、その人の生活習慣に合わせた時間帯に入浴してもらった方が良いと思うが、職員の数・共同生活の場・自力では入浴が出来ないという現実からみると、やむを得ないのでは。不潔にならない様また、不快な思いをさせないようにする事が、精一杯である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就床時間は、その人の希望に合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の趣味や楽しみに合わせて、いろいろ工夫はしているが、希望に添えない時もある。そんな時は添えない理由を説明し、後日希望に添えるようにしている。	○	いろいろな障害（視力・歩行）を持たれている方の生活の中で、どの様に楽しみや張り合いを持っていただくか、どの様な支援が良いのか検討して行きたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	お金を自己管理できる方はおらず、希望の品物が あれば職員が代行したり、家族の方へ連絡しお願 いしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	一人の方だけ、地域内を自由に外出しているが、 どこに行くのか、コースや所要時間などは聞くよ うにしている。他の方は、その日の天候等を考慮 し、職員同伴で外出しているが、日常的にはあま り出来ていない。家族の協力を得る所が多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	苑全体という所では、移動手段やその人の状態の 問題もあり、なかなか出来ないが、個人的には家 族の協力を得て外出をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	手紙や電話は、自由にして頂いている。自分で出 来ない方に対しても希望すれば、職員がお手伝 いをさせてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	家族や知人・友人の訪問には、一切の制限はなく 自由に訪問していただいている。訪問に関して は、自由に訪問して頂くようお願いをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員理解しており、身体拘 束をしない支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないことが理想である事は承知しているが、現実問題として事故防止やその他の要因にて、止むなく玄関に鍵をかけている。家族の方にも了解を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全対策・確認には、十分に配慮している。また、行き過ぎがないようにも気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人に応じて、見守りや声かけまた、物品の管理確認をしている、		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し、それを検討することにより事故防止や見守り時の留意点等を認識・確認している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置のマニュアルはあるが、全ての職員が応急手当や初期対応が出来るかは疑問である。苑内での訓練はしていない。	○	消防署が実施している応急処置や救急法の研修を、定期的に参加し職員の技術習得やレベルアップにつなげたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の緊急連絡網は作成され、召集訓練もしているが、想定した災害に対してはイメージトレーニングだけである。	○	上記と同じく、消防署が実施している応急処置や救急法の研修を、定期的に参加し職員の技術習得やレベルアップにつなげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランの策定の時や新たな支援方法を行う時は、本人・家族にそのリスクについて説明を行い、理解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々日常の健康管理・体調変化には全職員が気を配っており、些細なことも見逃さない様その連携対応も出来ていると思う。	○	今後も日常の健康管理・体調変化には全職員が気を配り、些細なことも見逃さない様昼夜努力して行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が個々人の薬の作用や内容を周知しているかは疑問であるが、薬の管理・服用介助・服用確認また、薬による症状の変化も全職員で行っており、誤服用が起きない様確認もしている。	○	薬の誤服用をしない様確認を行いながら、上記同様体調の変化を見逃さない様、職員個々人の能力のスキルアップを図って行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	昼夜を問わず排泄チェックは行っており、入居者個人のパターンも把握しようと努力はしている。便秘が及ぼす影響は周知しており、出来るだけ自然排泄を心掛けているが、その為の工夫努力はあまり出来ていない。	○	出来るだけ自然排泄が出来る様、食事や日常生活の中で身体を多く動かす工夫をして行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは実施・確認している。	○	今後も口腔ケアを実施して行くと共に、口腔内の異常に早く気づけるよう、スキルアップの努力をして行きたい。
77	○食生活の確保 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個人に応じて、病状や量や硬さ・形状などに配慮し実施している。水分摂取も体調や季節などを考慮しチェックしている。また、栄養バランスに於いては管理栄養師の方にチェックしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	全員また来訪者には、手洗い・手指消毒の施行徹底を行っており、季節やその時に応じて予防接種や検査を実施すると共に、毎日の掃除や清潔保持や予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防・清潔保持の為、食器・調理用具類の熱湯消毒や加熱料理を心掛けている。	○	高齢で体力や抵抗力の低い入居者のため、安全で美味しく食べてもらえるよう尚一層の工夫をして行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路より建物が高台であるため、転落防止のためフェンスで廻らしてあるが、圧迫感を抱かない様、入居者が育てている鉢を置いたり草花を植えたり工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節感が少しでも味わえるよう壁に四季折々のはり絵を飾ったり、廊下にはその人が場所を認知出来るような工夫がされており、居室においても家族の写真や自分で作った作品を飾ったり趣味の物を置いたりなど、安心してゆったりと過ごせる工夫をしている。	○	安心して居心地の良い空間づくりを、今後も工夫努力して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂空間にはソファを置いたり、畳の間には冬場はコタツを置いたりして、入居者が思い思いにゆったりと過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者に応じて、お気に入りやなじみの物を持ち 込んでもらったり、家族の写真を飾ったり等安心 してゆったりと過ごしてもらえるよう家族と共に 努力している。	○	今後も安心してゆったりと過ごせる居室空間作り に工夫・努力して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	季節やその時の状況に応じて、注意を払いなが らこまめに実施している。	○	居室では個人に合わせ、季節やその時の状況に応 じて、また共同空間の場所においては、各個人に 注意を払いながら、こまめに室内の換気・温度な ど空調の調整をして行きたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	既存の建物を利用しているため、廊下が狭いなど の使いにくさもあるが、安全に気を配りながら対 処・支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	場所・方向が分からなくなる方に対しては、認知 できるように場所や方向を示したりものを飾った りしている。また、その人の残存能力に応じて、 洗濯物をたたんでもらったりお盆を拭いてもらっ たり、食事材料の豆の皮むきや手伝いをしても らっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	怪我防止のため苑庭は芝を張っており、趣味の園 芸や散歩・日向ぼっこや夕涼みなど各自思い思い に過ごされたり、裏の畑では家庭菜園を楽しんで りされている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

共同生活をやむなく強いられている事に対して、本人の心情は計り知れない所があるが、苑のモットー「やさしさと笑顔いっぱい、地域で過ごす寿幸苑」を基本理念に、日々の日常生活が、安心して安全に楽しくゆったりと過ごしていける様、職員も昼夜工夫・努力している。